



## 栗山高校

鈴木千逸 議員

# Q：魅力づくり委員会の活動状況

## A：アンケート結果踏まえ取り組み

**議員** 高校進学アンケートの結果と栗山高校の魅力づくり委員会の活動の現状について、お尋ねしたい。

**町長** 今年度7月に、委員会を開催し、議論を進めていく上で、生徒・保護者のニーズを捉えることが重要であると考え、栗山中学校全生徒とその保護者を対象としたアンケートを実施した。

「栗山高校に求める学校像」の設問では、生徒・保護者とも「将来の職業に必要な資格や技能を身に付けられる高校」が約45%を占め、どの学年においても第1位を占めている状況であった。

結果を踏まえ、栗山高校の存在意義を議論の根底とし、栗山独自の持続可能な高校づくりの実現に向けて、栗山高校と連携し、取組を進めてまいりたい。

## 介護学校

### Q：経営改善計画の内容と進捗は

### A：定員削減し学生確保進める

**議員** 北海道介護福祉学校の経営改善計画についての内容と進捗状況について、お尋ねしたい。特に、学年1学級化による学校運営体制の構築と学生確保対策について伺いたい。

**町長** 現行の定員80名2学級を定員40名1学級とし、職員数を見直し、繰入金の削減を図っていきたい。

次に学生確保対策として、高校訪問、学生募集活動、福祉施設への情報提供を強化する計画である。施設修学資金貸付を行っている施設の参画拡大に向け、積極的に要請していきたい。

**再質問**  
**議員** 定員削減は消極的な政策ではないか。



**町長** 介護学校を存続させるための攻めの政策と考えている。これから経営改善していくが、将来について議員の考えは。

**議員** 定員削減以前に学生確保に心血を注ぐべき。外部からの専門的知見投入について検討すべきと思うがいかがか。

**町長** 今後、専門的知見の投入も進めていきたい。学校存続に向けて全力で取り組んでいきたいと考えているので、ご理解いただきたい。



体験入学時の学生による実演

こうとう質問もしました

Q：福祉のまち栗山として、民間賃貸住宅へのバリアフリー対策も重要と考えるがいかがか。

A：国や北海道の動向や、町民ニーズ等に注視しながら、必要に応じて検討を行いたい。

### 「反問」とは？

質問された相手に逆に問いかけることを「反問」と言います。通常、議会では町長や町職員が、議員に対して質問することはできません。栗山町議会では「議会が議論の場であるために、双方質問ができて当たり前」という考え方のもと、町長や町職員が反問できる仕組みになっています。



解説